

営農情報

第12号 平成27年7月16日発行

(水稻営農情報 病虫害防除)

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育概況

育苗期間中の多雨、日照不足により、一部で苗いもちが発生しました。今後の天候によっては、本田での葉いもちの発生が懸念されます。

ほ場をよく観察し、水管理や施肥・防除など、適期作業に努めましょう。

2 水管理

(1) 倒伏防止のためには、水管理がもっとも重要です。必要茎数(20本/株程度)が確保できたら、早めに中干しを実施します(目安は田植後1か月)。

特に、「元気つくし」の倒伏防止のためには適期中干しが重要です。

(2) 中干し後は、間断かん水を行います。なお、中干しが不十分な所や、葉色が濃く倒伏の恐れのある所では、強めの間断かん水を行ってください。

(3) その後、穂ばらみ期から穂揃期にかけては、最も水分が必要な時期なので水をためます。

(4) 高温障害回避のため、用水が豊富にある場合は、出穂後14日間程度かけ流しを行い、温度を下げましょう。

3 穂肥

穂肥時期の目安と施用量は、以下のとおりです。それぞれのほ場で幼穂長や葉色を観察し、穂肥時期や量を決定します。

品種	第1回目穂肥施用		10a当たり施用量(kg) NK7号	
	穂肥時期の目安	幼穂長(mm)	1回目	2回目
元気つくし	8/5頃	5	15	10
ヒノヒカリ	8/11頃	3~5	20	なし
ツクシホマレ	8/13頃	2	25	20

※ 穂肥2回目は、1回目の約1週間後に施用します。

4 カメムシ対策

カメムシ対策には、出穂後の農薬による防除を行いますが、発生を抑えるためには、畦畔などの草刈りが重要です。イネの出穂14日前までに畦畔など水田周辺の除草を徹底し、カメムシの住み処を無くしましょう。ただし、イネが出穂してからの除草は、カメムシの水田への飛び込みを助長するので絶対行わないでください。

(裏面へつづく)

5 病害虫防除

現在、病害虫防除所によるウンカ類の発生予報は平年並みとなっていますが、ほ場での発生状況を十分観察し、適期防除に努めてください。

① 葉いもちの発生を認めたら、下表のとおり早めに防除を行います。

品種	剤型	薬剤	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし ヒノヒカリ ツクシホマレ	粒剤	コラトップ粒剤5	いもち病	3 kg
	ジャンボ剤	コラトップジャンボ		小包装(パック) 10～13個

② 基本防除は、下表のとおり8月中旬ごろに行います。

品種	剤型	薬剤	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし ヒノヒカリ ツクシホマレ	粉剤	アプロードモンカット スタークルF粉剤DL	ウンカ類 紋枯病 カメムシ類	4 kg/10a
	液剤	アプロードモンカットエアー + スタークル顆粒水溶剤		1000倍 2000倍

※ アプロード剤に対するトビイロウンカの感受性が低下しているため、スタークル剤と混用して使用してください。

※ ウンカ類への効果を高めるため、防除作業はほ場に水をためた状態で行います。

③ 出穂前～出穂期の補正防除は、以下の通りです。

元気つくしで、葉いもちが見られる場合は注意しましょう。

品 種	防除時期	薬 剤 (全品種とも粉・液いずれか)	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし	8月16～21日頃	(粉剤) ブラシントレボン粉剤DL	いもち病 ウンカ類	4 kg/10a
ヒノヒカリ	8月25～31日頃			
ツクシホマレ	8月31日～ 9月5日頃	(液剤) ブラシントレボン水和剤	カメムシ類	500倍

注) 液剤を使用する際の散布水量は、10aあたり100リットルです。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!